

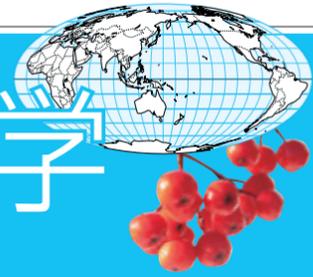
学報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol. 25

2018.12.20

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3	オープンキャンパス開催	2面
4	短期交換研修生来日、合同授業など行う	2面
5	交換留学生が出発	2面
6	レスブリッジ大学夏期海外研修派遣(1面の続き)	2・3面
7	2018、2019年度のキャリア支援について	3面
8	後期ガイダンス実施	3面
9	2年次所属学科決定	3面
10	日中韓青年フォーラムへ参加	4面
11	外国語スピーチコンテスト結果報告	4面
12	シンポジウム「食料基地北海道を支える物流の役割」開催	4面
13	中日経済国際学術シンポジウムを開催	5面
14	第6回高校生懸賞作文表彰式	5面
15	留学だより	5面
16	ゼミ訪問 コマース研究田村ゼミ	6面
17	「研究のいま」中鉢令児先生	6面
18	OB・OG NOW!	6面
19	2018年度後期公開講座開催	7面
20	2018体育祭&北海商科祭 Photo Gallery	7面
21	交換教員紹介	8面
22	新刊紹介	8面
23	STAFF NOW!	8面
24	医務室から「二十代の健康」連載 ⑫	8面
25	浅羽祭挙行される	8面
26	行事予定	8面

カナダレスブリッジ大学へ 夏期海外研修派遣実施



バンフ国立公園にて



Clover -響き合う葉音- 第13回 北海商科祭が開催される!

北海商科祭報告記

本年度の北海商科祭は、9月22日に、本学を会場として開催されました。9月に入り、台風通過や北海道胆振東部地震による停電など災害が相次ぎましたが、商科祭を通じて、元気に地域を盛り上げたいという学生の思いがこもった大学祭となりました。

商科祭開催にあたり、学生の実行委員会とサークル連合執行部など関係する部署では、節電や余震などからの安全確保を繰り返し話し合い、確認していました。その思いが通じたのか、当日は余震もなく、最後の抽選会は雨に当たったものの、穏やかな天気のおかげで祭が進行しました。

今回はあらたに、2号館1階にスタンドグラス風の「北海商科祭」の飾りと「ミニ・プ

ラネタリウム」が加わりました。どちらもすばらしい力作で、昨年からの復活したお花け屋敷とともに、学生達が夜遅くまで設営にがんばりぬいた成果です。

特設ステージでは、サークル対抗の早食いや大学生クイズなどのほか、テレビ番組で人気の濁点ハンズアップゲームが加わり、ステージいっぱい元気な声とパフォーマンスが広がりました。また、YOSAKOIソーラン演舞は、豊平地区のチームの他、区外のチームにもおいでいただき、アーティストのライブとともに、華やかにステージを盛り上げました。

今年度は、いろいろな課題に遭遇しましたが、「雨降って地固まる」のとえ通り、終盤には良い状態になってきましたので、次年度につなげていってもらいたいと思います。

(加藤)



夏期海外研修派遣

研修参加者に聞く

「学ぶことが多かったんで、モチベーションを持ち続けて次につなげる勉強をしたい」という留学仲間の橋本太君(写真後列左、商学科2年)と一緒に。前列左から内田祐希君(商学科2年)、工藤ことみさん(商学科2年)、後列右職員一条さん



一条: 8月8日から9月1日まで、約4週間にわたる海外研修に本学から7名が参加しました。私は今回が初めてのレスブリッジ夏期海外研修の引率でした。2人にとってはどのような経験でしたか。まず参加しようと思った動機から教えてください。

内田: 僕は英語力の向上と海外留学が目的でした。北海商科大(以下、本学)は海外留学が盛んで、中国・韓国に行く人も多く、友人にも今回のプログラムでカナダへ行こうと決めている人がいて、興味を持ちました。

工藤: 私は入学前から大学案内で夏期の海外研修を知り、行こうと決めていました。私の友人たちの中でも韓国・中国への留学経験者

が多く、私も挑戦してみようと思いました。一条: 応募後に面接を受けて合格、その後、3回にわたる事前研修会を通して、カナダの様々な情報を得たわけですが、現地挑戦しようと思っていたことや期待していたことなどはありましたか。

内田: 英語に苦手意識があったので、日本語が使えない環境で自分の英語がどの程度通じるか不安でしたが、本場の英語を学ぼう、積極的に交流しようと思っていました。英語は世界の共通言語なので、将来、外資系や海外と取引のある企業に就職して、日常的に英語を使うことも視野に入れられるようにしたいと。【2面・3面へつづく】



写真上：全体説明 下左：韓国語の模擬講義 下右：学生スタッフによる Shoka Cafe（かき氷の提供と現役学生からのアドバイスを受けられます）

オープンキャンパス開催

今年度のオープンキャンパスは、6月24日(日)、8月8日(木)・9日(金)、9月30日(日)の3期延べ4日間にわたり、午前10時から午後4時までの時間帯で開催しました。

主な内容としては、まず全体説明会において、入試・広報センター長挨拶の中で、本学の建学の精神や歴史、アドミッションポリシーなどを紹介し、続いて事務長より本学の特色（カリキュラム・大学生活・就職状況）や入試制度などについての詳細な説明を行いました。また、模擬授業では恒例の中国語・韓国語・英語の会話に重点を置いた語学体験に加え、商学科や観光産業学科などの専門的な内容を分かりやすく伝える模擬講義を実施し、来学者に本学での学びの一端を体験してもらうことができました。

受験者や保護者からの相談に応える個別相談コーナーでは、入試・広報センター委員が終日対応に当たり、活発な質疑・応答が行われました。また、高大接続改革を見据えて昨年度から実施した公募推薦入試（Ⅱ期）のプレゼンテーションについて解説する特設コーナーを設け、受験生に理解を深めてもらいました。

学生の協力を得て行うキャンパスツアーでは、先輩のアドバイス付き学内案内とともに、2号館1階にカフェスペースを設け、夏にはかき氷を頬張りながら、また、秋にはお茶や韓国のお菓子を味わいながら、本学学生と来学者とが歓談する場面もありました。

今年度のオープンキャンパスへの来学者は450名となり、過去最多となった昨年の459名に迫る結果となりました。春と夏には、過去最多となる358名（昨年342名）の来学がありましたが、秋には減少しました。北海道に甚大な被害をもたらした地震や台風などの影響もあったものと思います。

ご協力を頂いたアンケートからは、札幌市内に加え、地方からの参加が多かったこと、保護者の割合が高くなっていること、女子の割合が高くなっていることなどが見て取れました。少子化が進行し、高大接続の三位一体的な改革が推進される中、オープンキャンパスの一層の改善を図って参りたいと思います。（堂徳）

短期交換研修生来日、合同授業など行う

去る7月9日、本学の交流協定校である中国山東大学威海校・煙台大学から18名（男4名、女子14名）の研修生が山東大学の黄明玉先生の引率で千歳空港に到着し、当日、すぐ本学北見校地に向かいました。10日から17日までの8日は北見校地にて日本語研修を受け、15日には屈斜路湖・網走・オホーツク原生花園・網走監獄(博物館)などを見学。17日には北見市立北光小学校の授業を参観しました。18日に札幌に移動し、19日から27日までは本学8階の開発政策研究所で日本語研修を受けたほか、学外研修(札幌時計台、道庁赤レンガ、札幌駅、北海道大学構内などの見学)、郊外研修(酪農と乳の資料館、支笏湖、カルビー、キリンビールパーク)などを行いました。30日の午後には森本学長・理事長宅で修了式が行われ、研修生一人一人に森本学長・理事長手ずから修了証書が手渡され、夕食会が行われました。研修生一行は翌31日に札幌を離れ無事帰国しました。（水野）

短期留学生と日本人学生との交流を図るため、7月27日に本学の中国語履修一年生との合同授業を実施しました。

合同授業において、まず短期留学生に「日本における観光立国政策の効果」を紹介したあと、7つのグループを分け、中国人学生は日本語を、日本人学生は中国語を用いて自己紹介をしました。本学の一年生は、語学力がまだ入門レベルにもかかわらず、一所懸命に身振りや手振り言葉で交わり、多くの学生は筆談を通して交流を深めました。また、中国人学生は山東大学や煙台大学の様子や町の風景を紹介し、留学に行く派遣学生の質問に熱心に答えてくれました。最後にみんなで「朋友」という歌を熱唱して合同授業を終えました。（蘇）

3

4

6

5



写真上：研修生と本学教職員記念写真
写真右：研修修了式での山東大学威海校研修生代表による挨拶
写真左：短期留学交換研修生プログラムの日本語学の授業

交換留学生が出発

去る8月27日、韓国の大田大学の短期留学プログラムに参加する学生10名(女子10名)が千歳空港から出発しました。参加学生は5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。本学の提携校である大田大学校において、約5ヶ月間にわたり、語学プログラムを中心に韓国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年の1月に帰国する予定です。また、9月3日に中国の山東大学(威海)の短期留学プログラムに参加する7名(男子4名、女子3名)、煙台大学の同プログラムに参加する6名(男子4名、女子2名)、合計13名が千歳空港を出発しました。参加学生は同じく5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。各協定校において、約5ヶ月間にわたり語学プログラムを中心に中国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年1月に帰国する予定です。（水野）



写真左：出発前の韓国交換留学派遣学生 写真右：出発前の中国交換留学派遣学生と同行する教員

「一面から」参加者に聞く 夏期海外研修 レスブリッジ大学



職員
一条 昌弘さん



商学科2年
工藤 ことみさん



商学科2年
内田 祐希君

工藤：事前研修会でプログラム内容を知り、とても楽しみでした。同時に文化の違いや言葉が通じるかどうか、人見知りの性格も相まって、不安もありました。でも自分から喋らないと伝わらないので伝えようとする気持ちが大事だと思い、参加しました。

一条：カナダでの研修は、平日の午前にはESL(英語学習)、午後からは様々な交流行事プログラムを体験しましたがどうでしたか。

工藤：講義はゆっくりとわかりやすく、ついていけないということはありませんでした。ただ、最初は会話の中でLとRの発音の違いを表すのが難しく、なかなか伝わらないこともあったのですが、少しずつ改善できたと思います。

内田：本学ではプライアン先生の英語の講義を受けているのですが、先生は日本人特有の発音に慣れているので多少の発音ミスがあっ

2018、2019年度の キャリア支援について

2017年度(2018年3月)に全国の大学を卒業した者の就職率は、就職希望者に占める就職者をサンプル調査した「大学等卒業生及び高校卒業生の就職状況調査」(文科省・厚労省)で98.0%(前年度比プラス0.4ポイント)、全卒業者に占める実際の就職者を集計した「平成30年度学校基本調査」(文科省)で77.1%(前年度比プラス1.0ポイント)で、いずれも就職率は継続的に改善しました。この傾向は企業の新卒者をめぐる採用姿勢にも現れています。企業は2018年度採用にあたって引き続き積極的ですが、採用予定者数の確保率では、上場企業より非上場企業で、規模では従業員規模1,000人以上の企業より300人以下の企業で、業種別では建設、小売、サービス・インフラ、製造、ソフトウェア・インフラなどで、相対的に低い(未達成)傾向がみられるようです。

今年度も会社説明会開始・採用情報公開が3月、選考開始が6月の日程に変更はなく、就職活動は3月1日から解禁となりました。しかし実際の選考開始時期が徐々に前倒しされていることから、選考前の準備(志望企業の選択、筆記試験対策、エントリーシートの作成など)に費やせる時間がますます短くなっているようです。年々就活の短期化が進んでいるので、企業の選考を経験しながら自己の反省点を徐々に改善していく従来型の就活対応が、徐々に効果を落としつつあります。この意味で2019年度卒業生にとっては、事前にどれだけ準備を整えられるかが重要となっています。また内定の二極化が進んでいるのも特徴です。報道などでは、比較的早い時期に就活を終了する学生の割合が増える一方で、9月以降も就活を続ける学生が目につくようです。

今年度3年生向けには前期8回、後期9回の就職ガイダンス・就職支援講座を開催し、あわせて個別面談を実施、個別相談には随時対応しています。合同企業説明会(共催 北海学園大学)も3月から10月にかけて4回延べ7日間に渡り実施しますので、積極的に参加し、利用してください。(村松)

後期ガイダンス 実施

平成30(2018)年度後期ガイダンスを9月13日と14日に実施しました。これまで4年次生以外のガイダンスは1号館3階の2教室を会場として分割して実施していましたが、ガイダンス運営の効率化を図るため、後期ガイダンスは2号館5階の多目的ホールへ会場を移して全年次1会場で行いました。13日午前に3年次、午後に2年次、14日午前に1年次、午後に4年次、それぞれの年次生に必須の連絡事項と注意事項について、教務センター、学生支援センター、キャリア支援センターがガイダンスを実施しました。教務センター長からは、本学の3つのポリシー(ディプロマ・カリキュラム・アドミッション)が説明され、学生達は大学の基本方針を確認しました。併せて、講義中の基本マナーの確認やコンピュータ教室での飲食禁止の徹底など、講義受講上のルール遵守を図るための指導も行われました。各学年のガイダンス終了後に2年次と3年次の専門ゼミナール申し込みと履修許可発表を行い、9月18~19日の期間にGPAポイント順に各学年の履修登録を行いました。履修登録科目の訂正は9月20日と21日に実施し、後期の講義は9月25日からスタートしました。(佐藤博樹)



夏季休業明けの9月13日に行われた3年次後期ガイダンス



でも理解してくれます。ただ、カナダで担当してくれたジル先生には正しく発音しなければ理解してもらえないので、発音はかなり鍛えられました。

一条：今回の研修で思い出に残っていることはありますか。

内田：レスブリッジの人口は9万人ほどと少なく、のどかな街でした。大学は丘の上に位置しており、鹿やウサギなどの野生動物が当たり前のように大学敷地内にいる環境で驚きました。ホストファミリーには地元のお祭りに連れて行ってもらったり、年齢の近い息子さんと遊んだり、とても良くしてもらいました。ピアパートナーのハン君も、家に招待してくれたり、最後の見送りが朝早いのにきてくれたり、親切にしてくれました。

工藤：週末に訪れたパンフは言葉では表せないほど神秘的で雄大な湖と山があり、西欧風の街並みも印象深かったです。それと、ホストファミリーがとても優しい人たちで、いつも気にかけてくれました。週末にはショッピ



レスブリッジ大学での研修 写真左からジル先生のESL講義風景、最後の講義後に記念撮影、大学内のレストランでウェルカムランチ

ングに連れて行ってくれたり、私のためにわざわざ日本米のご飯を炊いてくれたり、ホストファミリーとの日常が何より楽しかった。私は最初ホームシックになったのですが、お別れの日が近づくにつれ、日本に帰りたくなるくらい名残惜しかったです。

一条：最後に今後の抱負を教えてください。

工藤：レスブリッジを離れる時、ホストファミリーに英語でうまく気持ちを表現できな

3年生対象 就職ガイダンス・講座および就活支援イベントのスケジュール一覧 [2018年度]

前期		後期	
ガイダンス / 講座等名	実施日	ガイダンス / 講座等名	実施日
第1回 就職ガイダンス	4月18日(水)	第3回 就職ガイダンス	10月3日(水)
本当の就職活動の現状について = 企業の視点から =	4月25日(水)	自己分析講座	10月24日(水)
本当の就職活動の現状について = 就職情報社の視点から =	5月9日(水)	企業研究講座1	11月7日(水)
学外インターンシップについて	5月23日(水)	企業研究講座2	11月21日(水)
学外インターンシップ(実践編) ※予約制(定員40名)	6月6日(水)	SPI模擬試験受験会	11月27日(水)~29日(水)
適性検査受検 ※予約制 ※どちらか1日参加ください	①6月12日(水) ②6月13日(水) ③6月14日(水)	SPI模擬試験受験フィードバック	12月12日(水)
適性検査結果フィードバック	7月4日(水)	ES・履歴書・面接・GD講座	1月16日(水)
第2回 就職ガイダンス	7月11日(水)	第4回 就職ガイダンス	1月23日(水)
◎合同企業説明会(4年次): 2018年3月~10月に4回 (北海学園大学キャリア支援センターとの共催)		メイク講座(女子学生対象)	1月30日(水)
		個別面談	決定次第お伝えします



3年後期キャリア支援ガイダンス(9月)



合同企業説明会(3月)

2年次所属学科 決定



9月13日実施の2年次後期ガイダンス

学部入試への移行に伴う2年次後期の所属学科決定作業は、今年度で7回目となりました。学生の所属学科志望を考慮し、両学科の入学生定員に対し志望が偏った場合には、1年次の成績評価に基づくGPAポイントを活用して所属学科の選考を行うことを1年次から周知して、3月23日に新2年次ガイダンス、5月23日に第1回所属学科選考ガイダンス、6月5~14日にかけて両学科の専門ゼミナール見学会を実施しました。6月27日に第2回所属学科選考ガイダンスを実施した後、CoursePowerを利用して「志望学科届」を受け付け、選考作業を行いました。選考対象学生222名に対し、学科ごとの志望結果は商学科84名、観光産業学科110名、志望学科届未提出者28名となりました。観光産業学科への志望者が両学科の定員比率(商2:観1)に基づく定員74名を超過したため、超過人数分36名と未提出者28名を商学科所属とし、最終的に商学科148名、観光産業学科74名で所属を決定しました。後期ガイダンス前の9月12日に選考結果をCoursePowerと学内掲示板で発表しました。(佐藤博樹)



かったのも、もっと自分の考えや思いを自由に伝えられるよう、継続して英語を勉強し続けたいと思います。

内田：僕も英語を日常会話として難なくこなせるように身に付けたいと思います。また、ホストファミリーやハン君とはこれからも連絡を取り合い、またいつか会いたいと思っています。

一条：私も3年前までの7年半の間、レスブ

リッジ大学との交流を担当して、その中で多くの友人関係を築くことができました。今回急遽ホストファミリーを探さなければならなくなった時に、彼らの協力のおかげで問題を迅速に解決することができました。それぞれに今回の経験を大事にして、これからもそのつながりを継続していきたいですね。今日はありがとうございました。

(11月30日座談会)

日中韓青年フォーラムへ参加



観光産業学科3年 須田 桃加

私は、平成30(2018)年8月20日から8月26日に韓国で開催された第15回東北アジア(日中韓)青年フォーラムに参加しました。日本人の参加者は14名で、北海商科大学からは過半数の7名が参加をしました。

討論の議題は毎年異なり、今年は「第四次産業革命と青少年」という議題で討論を行いました。討論会は3つのサブテーマに分かれており、同じサブテーマを共有するグループ毎に分かれ、各自の事前調査に基づき意見交換を行い、後に意見交換のまとめを全体で発表するものでした。また、フォーラムは討論会だけでなく施設見学や市内散策、文化交流、文化体験の場も設けられていました。

討論会に向けて日本チームは、サブテーマのグループ毎に分かれ事前準備を念入りに行いました。事前準備までの段階では特に問題なく、スムーズに意見交換することができましたが、3カ国での討論となると、言葉や文化の違い、意見の食い違いで、討論会の進行は難しいものとなりました。多言語が飛び交いながら、意思疎通の難しさを感じ、異なる文化や価値観を持った学生が集まり意見を共有する機会はなかなか無いと感じました。文化交流と文化体験では、各国の文化を知る機会でもあり、個々人の親密度を深める時間となりました。施設見学も第4次産業に関する企業の方のお話を聞くことができ、7日間にわたって貴重な体験をすることができました。



写真上:日本チームの参加者と 写真下:本学の仲間と



10

シンポジウム

『食料基地北海道を支える物流の役割』の開催

10月6日に北海道農業経済学会主催(共催 北海商科大学他)のシンポジウムが本学にて開催されました。

本シンポジウムは、「北海道の基幹産業である食産業の競争力維持・強化に向け、その要である「物流」の果たす役割と様々な課題を検証し、食料基地北海道の更なる発展と物流強靱化に向けた具体策を提案する」ことを狙いとしました。

シンポジウムでは、本学教授で主催学会・会長の阿部秀明からの「座長解題(テーマの狙い・議論のポイント等)」を受けて、4名のパネリストより、物流が抱える課題や取組について報告がなされました。第1報告では本学教授の相浦宣徳氏より「物流分野から農業分野への北海道物流に関する問題提起」を、第2報告ではホクレン管理本部物流部・部長の児玉卓哉氏より「道産農畜産物の道外輸送の実態および課題とホクレンの取組みについて」、第3報告ではJAきたみらい営農振興部・部長の河田大輔氏より「物流の変革期における産地の実情と課題について」、第4報告では富良野通運株式会社・専務の永吉大介氏より「北海道物流の課題が地域に与える影響とその対策」について、ご講演を頂きました。その後、参加者の皆様方とともにパネルディスカッションが行われました。

一般参加を含め百数十名のご参加を賜り、白熱した議論の中で盛況に終えることができました。参加頂いた皆様に、この場を借りて深甚より感謝申し上げます。(阿部)



シンポジウムに登壇した5人のパネリスト

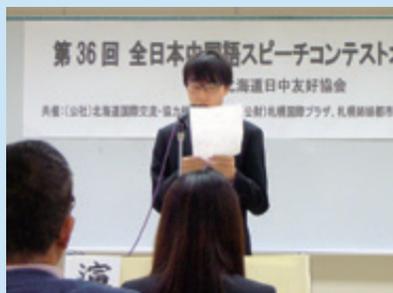
11

外国語スピーチコンテスト

全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会で入賞

10月14日、札幌市にて北海道日中友好協会が主催する「第36回全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」が行われました。大会には中国語を学んでいる中学生、高校生、大学生並びに社会人が大勢出場し、普段の学習成果を披露しました。本大会は、毎年「朗読の部」、「暗唱の部」と「弁論の部」に分けて行い、本学2年の江良和真君は「朗読の部」の2位、渡辺萌香さんは「弁論の部」3位、川原凌君は「弁論の部」の特別賞を受賞しました。

本学の参加者全員は、プレッシャーに負けることなく平素の学習成果を披露しました。特にシャイな江良和真君は、課題文を明快な声で朗読し、優勝をかけて競り合った結果、みごとに2位を受賞しました。また、渡辺萌香さんは「中国や中国人に対する印象」、川原凌君は「点と線との連結」というタイトルで、中国留学の見聞やアルバイト先での経験を通しての自らの見解を述べ、審査員に高く評価されました。(蘇)



写真上から、弁論の部でスピーチする江良和真君、渡辺萌香さん



左から川原君・渡辺さん、右から3人目が江良君、4人目が本学蘇林教授

韓国語弁論大会受賞と韓国語能力試験の実施

11月10日に北海道立近代美術館講堂において開催された第20回北海道韓国語弁論大会(主催:札幌韓国教育院・北海道韓国学園)において本学2年生の松本遥香さんが「日韓交流を通して学んだこと」、同じく吉崎萌さんが「韓国人の友達と私」というテーマで発表を行い、奨励賞を受賞しました。この大会は北海道の地域社会における韓国に対する理解と韓日友好親善の拡大を目的として毎年11月に実施されています。

また、去る7月15日、韓国教育省・国立国際教育院が主催し、駐日韓国大使館・韓国教育財団が主管する韓国語能力試験が本学を試験会場に実施されました。この試験に本学の1~3年生21名が受験し、最上級の6級に3名、5級に5名、4級に3名が合格する快挙をあげました。(水野)



北海道韓国語弁論大会で奨励賞を受賞した吉崎萌さん(左)と松本遥香さん(右)、中央は本学李鳳准教授



写真左:スピーチする松本遥香さん 写真右:表彰式の様子

中日経済国際学術 シンポジウム

中国雲南省
昆明市で開催



中国雲南省昆明市の雲南民族大学で9月26日、北海学園北東アジア研究交流センター(HINAS)と中国社会科学院世界経済政治研究所(IWEP)が、日中の経済協力の可能性を探る「中日経済国際学術シンポジウム」を開催しました。

HINAS副所長の西川博史・本学教授は、中国の経済力や技術水準の向上に伴って、米中経済摩擦が激化した状況について、「日本は1980年代に経験済みだ」と日米貿易摩擦との類似を指摘したうえで、中国は日米と異なる発展モデルを模索すべきではないかと提言しました。IWEPの張宇燕所長は、米国トランプ政権の保護主義が「WTO(世界貿易機関)体制の危機を招いている」と批判したうえで、日中両国は自由貿易協定(FTA)や第三国に対する経済支援など、多くの分野で協力を深められると指摘しました。

阿部秀明・本学大学院研究科長は、中国でも関心の高い「植物工場」について、千葉県の先進的な取り組みを紹介しました。また日中の技術協力について伊藤昭男・本学商学部長は、両国の業界団体が電気自動車の充電機の次世代規格を統一することで合意した事例を挙げ、技術標準化を両国で推進することの意義を強調しました。このほか石原享一・本学教授が、日中経済が内包する課題について報告したほか、蘇林教授が日本の観光立国政策について、北海道国際交流・協力総合センターの高田喜博研究員が北海道開発の歴史と課題について、佐藤千歳准教授がアイヌ民族と日本の観光政策について報告を行いました。

会議には、HINASやIWEPの関係者のほか、雲南民族大学の研究者など計100名あまりが出席しました。(佐藤千歳)



写真上は雲南民族大学の中庭に集まった北海道と中国からのシンポジウム参加者
写真下は日中経済協力の可能性について話し合った国際学術シンポジウム

懸賞作文の表彰

第6回 高校生

今年度の北海商科大学主催 高校生懸賞作文には道内各地から65編の応募がありました。この懸賞作文の募集は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、2012年度より実施し今回で6回目です。

作文のテーマは例年に引き続き「①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。厳正な審査の結果、表のとおり10名の方々が入賞されました。

表彰式は12月1日に本学で開催、入賞者には伊藤昭男学部長より、表彰状と副賞(図書券)が手渡され、引き続き審査講評と懇親会が行われました。(橋元)



写真左:入賞者の皆さんと 写真右:表彰式後の審査講評

入賞者一覧 [敬称略]

	テーマ	氏名	高校名・学年
1位	観光スポット	小野 満梨奈	北海道千歳高校 3年
1位	グルメ	紅屋 華穂	北海道札幌国際情報高校 3年
2位	グルメ	鈴木 美保	北海道札幌国際情報高校 3年
2位	お土産	熊谷 有紗	北海道札幌国際情報高校 3年
3位	観光スポット	坂井 荘太	北海道札幌国際情報高校 3年
3位	観光スポット	大越 紀尚	北海道札幌国際情報高校 3年
3位	観光スポット	野尻 彩音	北海道札幌国際情報高校 3年
3位	グルメ	神田 真都	北海道札幌国際情報高校 3年
3位	グルメ	井川 将志	北海道追分高校 3年
3位	観光スポット	三浦 知咲歩	藤女子高校 1年

留学だより



商学部1年 印牧 明日香 中国・煙台大学留学

私は現在、約5ヶ月間交換留学生として中国の煙台大学に留学しています。初めての留学で不安もありましたが、たくさんの方々のおかげで充実した留学生活を送っています。現地の方の話す中国語はとても早く発音も難しいので、苦労することも多いですが、努力を重ね少しずつ理解できるようになってきました。実際に中国に来て中国の文化や習慣に触れることができるのは、とても良い経験だと思います。

クラスメイトの韓国人や日本語を勉強している中国人だけでなく、いろんな国の方と交流できているのも魅力の1つです。なかでも、中国語を話さなければならない環境が、語学力の向上において有益なものだと思います。日常的に使わざるを得ないので、わからない言葉は寮に帰ってから調べたり中国人の友達に聞くなどして、日々成長できていると思います。

また、異国での生活は初めてのことが多く、新しいものの見方を得ることができるので、語学面以外でも成長できていると思います。約2ヶ月経ちましたがこれからも語学力向上・異文化理解のために日々努力し、感謝の気持ちを忘れず、充実した留学生活にしていきたいです。



樋口君(写真中央)の誕生日をクラスメイトと一緒に祝い。樋口君の右が印牧さん

商学部1年 北原 幸枝 中国・山東大学(威海)留学

留学生活も約2ヶ月が経ちました。今は楽しい中国生活も中国に来た当初は不安でいっぱいでした。慣れない味付けの料理、上手く話せず、聞き取りに苦戦する中国語、初めての寮生活。毎日、本当に驚くことばかりです。

その中でも、私が1番印象に残っている出来事は2泊3日の青島旅行です。自分たちで慣れないながらも電車のチケットの手配やホテルの予約などをして、綿密に計画を立てました。いざ、青島に行ってみると威海とは違う景色、食べ物など、新たな発見が沢山ありました。街の人はみんな優しく、素敵な出会いにも沢山恵まれました。楽しくて、とても良い思い出になりました。

山東大学では、留学生の交流会が沢山行われており、中国の文化なども少しずつわかってきました。中国や韓国など色々な国の人と友達になることも出来ました。一緒に食事や遊びに行き、お互いの国の文化について話したり、お互いの国の言語を教えあったりするのはとても刺激になり、とても楽しいです。

留学生活も残り約2ヶ月となりました。これからは、HSK4級取得のため日々精進し、みんな合格できるように頑張ります。そして、もっともっと沢山の経験をして、留学生活をより良いものにしていきたいと思っています。



多くの体験をし交流を深めています。山東大学日本語学科のみなさんと。前列右が北原さん

商学部1年 大島 万和花 韓国・大田大学校留学

私は韓国に来て大変だったこと、そして楽しい思い出が沢山あります。

まず大変だったことは、寄宿舎についてです。冷蔵庫と電子レンジが1ヶ月無くて、毎日コンビニや店で食べたのでお金がすぐに無くなってきました。そして一番大変なことはバスに乗ることです。韓国は基本的に車のスピードが速く、手すりがあっても立つのが辛くて最初の頃は転ばないように耐えるのが大変でした。日本ではありえないことです。しかし、楽しいことが溢れています。週末に友達と遊びに行き買い物したり美味しい食べ物を食べることはとても幸せです。韓国は1200円でサムギョプサルを食べ放題があります。日本では決してできないことなので韓国を訪れたらぜひオントリセンゴヘ行ってみてください。

学校の生活の中でも楽しいことが沢山あります。学科対抗のスポーツ大会が楽しかったです。また毎日の授業でベトナム、中国、カナダの友達と話すことも本当に楽しい時間です。今は日本に帰りたくない、友人たちとずっと一緒にいたいという気持ちでいっぱいです。

残された時間を勉学に励み、友達との思い出に有意義な時間を過ごしたいと思っています。



スポーツ大会で見事3位となった仲間たちと。後列右から4人目が大島さん

ゼミ訪問

田村亨教授 ● コマース研究ゼミナール



商学科では、多様化する現代ビジネスに関する専門的知識を学際的なものを含め幅広く学びます。2年生後期(第4セメスター)から始まり、4年前期(第7セメスター)まで続くコマース研究ゼミナールⅣは、それまで学んできた知識の理解をさらに深め、習熟度を高めることが目的の専門ゼミ。今回は田村亨教授のゼミナールを訪ねました。

田村亨教授の専門分野は、東アジアの地域開発、商業空間整備、ロジスティクス(物流と管理)と多岐にわたっています。そのなかから田村教授がコマース研究ゼミナールで取り上げている主要テーマは商業空間整備プロジェクトの研究です。魅力ある商業空間はなぜヒト・モノ・情報・お金を引き寄せるのだろうか。各地で展開されている商業空間の拠点整備事業や、にぎわい空間づくりなどを対象とすることで、プロジェクト評価の手法、消費者の行動理論、企業の立地戦略、流通やマーケティングに関する理論など、現代ビジネスを理解する上で必要な専門的知識を習得することが目的です。

もうひとつ、田村ゼミの大きな特色にあげることができるのは「理論を把握するために現場に出よう」という田村教授の考え方で、そうした方針のもとでテキストを使った講義だけではなく、ゼミ生たちは街へ出て札幌市内で商業空間整備プロジェクトを展開するデベロッパーや管理運営会社などへのヒアリングを行い、研究報告書をまとめてきました。具体的には、札幌駅前通りの地上と地下(チ・カ・ホ)を魅力ある都心の顔として育て、にぎわいある地域づくりを進めている「札幌駅前通まちづくり株式会社」を対象とした



田村ゼミの皆さん。写真下は研究成果のプレゼンテーション

研究が第一弾。また、前期は札幌市が地域住民やデベロッパーなどとも連携して再開発を進める「創成東地区のまちづくり」を研究対象に取り上げています。この課題ではプロジェクトの調査、分析を進めた上で、事業に関わってきたコンサルタント会社「ノーザンクロス」へのヒアリングを行い、成果を報告書にまとめました。

9月から始まった今期ゼミの研究対象は「札幌駅前開発株式会社」。同社はJR札幌駅に直結するJRタワーに「札幌ステラプレイス」「アピオ」「エスタ」「パセオ」などのショッピングセンターを抱え、市内では最大の集客規模を誇る複合商業施設の管理運営会社です。ここで与えられた課題は、流通に関する基礎理論である「売買集中の原理」「小売りの輪仮説」「アコーデイオン仮説」などをとらえ、「この複合商業施設の特徴を分析し、今後の発展方向を考察せよ」というものです。

今期のゼミ生は2年生14名、3年生10名の合計24名。3〜4名のグループに分かれ今回の課題に取り組み、調査研究の成果を報告書にまとめ発表します。取材に訪れた日は全員による中間発表が行われていました。これをもとに後行われる同社へのヒアリング項目を決めるため内容も真剣なものでした。山田有祐美さん(2年生)は「田村先生の講義が面白く、もっと深く学びたいと思いついてこのゼミを選択した」と言います。また、浜田航希君(3年生)は、「まちづくりに興味をもっていました。ゼミではそれを流通などの現場を通し実践的に学ぶことができます」と、その魅力を語ります。



研究のいま ● 中鉢 令兒 教授 「或る研究者の備忘録」

研究室で誇るべき研究は少ないが、輩出した研究者は、アジアレベルでも評価が高い葛西洋三君(前任校)と泉澤圭介君である。ともに学生時代に国際学会(オールセッション)で認められた学生である。葛西君は、因子分析がまだ林数量化I類などと呼ばれていた時代で、教員と学生がノーサイドで研究を進めた。彼が2年目の時、北大でアジア都市計画国際学会が開かれ、真価を問うために応募することにした。採択総数53編の中に、僕らの論文を発見した時は、最高の喜びだった。第一筆者が学生の論文は、唯一だった。彼は今台湾静宜大学の准教授である。博論執筆中の泉澤君は、セブで開催された2018APTAでベストペーパー7に選ばれた。日本では、査読で落ち続けていたのでオリジナリティでは折り紙つきであったことに安堵した。僕のしたことは、論文のフレームを改変・提案した連名者に過ぎないが、研究歴で特筆できることだった。そのレベルで誇れる研究は、UCFの原先生と札幌市とのMICE研究である。その折にもUCFの留学生霜越君の協力を得た。40余年に渡る研究生活であったが、優秀な学生に引きず



MICEプログラム: ベネフィット・パートナーシップでプレゼンターと(ポートランド)

られてここまで来たことに感謝以外の言葉はない。また当研究の留学生郭倩、劉潔君(筑波大博士在学)の国際学会での発表も特筆できる。僕の研究の中心は、あくまで観光政策論の範疇の研究だった。政策論は、実際に現地に行き調べなければ、砂上の空論に過ぎなく誤りも多い。日本の場合はいいが海外の場合は資金がいり、検証には、最低1週間の滞在が必要である。オースマンの偉業とその後のパリ都市政

策の検証のため、1月の雨の中凱旋門の屋上に登ったことが一番の思い出である。北欧旅券同盟の検証でヘルシンキに滞在したことも懐かしい。週単位貸しのアパートで過ごしたが、駅周辺のスーパーで1日の食材を買うのが日課だった。いつも初老夫婦で覚えのない英語で買い物をしたが、いつも誰かが助けてくれた。アパートから徒歩で15分程度の場所だったので、トラム代を節約するために何時も歩いて通ったが、フィンランドの日々の生活を垣間見ることが出来た。最近では、インド文化圏の研究が多い。この領域だけは、敬遠され単独行動である。まあそういった意味では、研究活動は、家族共同体の理解なくしては、如何ともし難い。何かと研究のヒントをくれたO北大名誉教授は、「緩やかなアソシエーションとしての研究者の家族」と函館でそばを打ちつつ語っていた。O先生には、随分ご無沙汰して失礼しているなと思った。



APTAでベスト7論文に選ばれて、カナダの研究者と泉澤君との記念ショット(セブ島)



パシフィックナートの修行僧(サドゥー)たちと歓談後の記念撮影(ネパール)

O B・OG NOW!

● 株式会社共豊コーポレーション

中居 裕作さん

[平成23(2011)年 本学商学部商学科卒業]

現在は株式会社共豊コーポレーションという、自動車パーツのアルミホイールをメインに、商社としてオートパーツの卸売を行う会社に勤務しています。担当業務は自社ブランド品のホイール開発や品質管理、中国勤務の中国人社員の育成に当たっています。この勤務先を志望した理由は営業職を希望していたとともに、大学で学んだ中国語や留学経験を役立てたいと思ったからです。

就職活動で心がけた点は、皆さんも周りの友人等の状況がプレッシャーになる人があると思いますが、自分のペースで根気よく就職活動をしたことが良い結果を伴ったと思っています。集団面接で一発芸はしない方が良いです。「滑ってもメンタル強いです。」というアピールは通用しませんでした。(笑)

北海商科大学は第一志望ではなかったのですが、そのことでよりいっそう大学在学中に体育祭実行委員会や大学祭実行委員会などの運営と行事に力を入れて関わりました。これらの委員会を通して、先輩・後輩・仲間、大学関係者の方々と交流を深めることが出来ました。行事を全員でやり遂げた事、共有できた時間が大学生活をより充実させることに出来、今となっては非常に良い思い出です。

また、中国留学もカルチャーショックの連続で、異文化を楽しみながら学ぶことが出来ました。中国語や留学中に環境に適応していたことが、中国勤務時の仕事や私生活で役に立ちました。ぜひ皆さんも語学や留学など大学生活を充実したものにしてください。



■ 株式会社共豊コーポレーション 会社概要

創業：1968年
本社所在地：愛知県名古屋ほか全国5都市に事業所
事業内容：自動車用アルミホイール、各種カー用品を、全国のカー用品ショップやタイヤショップへ卸売りする総合商社。近年は中国にも進出して関連会社を設立



写真左：勤務先での中居さん
写真上：大学祭実行委員として大学祭で活動する中居さん

東 2018年度 後期公開講座 アジア社会の時空間を読む

- 日時：平成30(2018)年 10月27日・11月10日・11月24日・12月1日・12月8日 (全5回、10:30~12:30)
- 場所：本学1号館8階会議場
- 参加対象：一般市民 (学生を含む)

第1回 10月27日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●北極海航路における北海道の位置づけと役割 日本データサービス株式会社執行役員副社長 川合 紀章 ●植民地女学校の少女たち —京城公立第一高等女学校生の植民地体験— 北海道情報大学メディア学部教授 広瀬 玲子
第2回 11月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●中国マクロ経済の政策と現状 中国社会科学院 世界経済政治研究所副所長 姚 枝仲
第3回 11月24日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●習近平政権の対外戦略と対外行動 早稲田大学政治経済学部助教 吉川 純恵 ●仏教東漸：中国は仏教から何を学んだか 前埼玉工業大学教授 土山 泰弘
第4回 12月1日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●日本にのみ伝わる中国古典『玉燭寶典』について 山東大学(威海)文化伝播学院副教授・本学交換教授 朱 新林 ●日本の文化的特質とは何か 北海商科大学教授 西川 博史
第5回 12月8日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバル経済と税のメカニズム 北海商科大学准教授 中西 良之 ●日本型DMOの本質的課題 北海商科大学教授 伊藤 昭男

本学の公開講座は前期・後期の年2回開催されています。後期は10月27日(土)から12月8日(土)まで、多彩な内容で5回にわたって実施しました。本講座の目的は、本学の教育目標が北東アジアの情勢を踏まえて「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことに置かれ、現代社会の急速なグローバル化に対応した教育研究が実践されていることや、学外の研究機関との研究交流が実践されていることを、広く皆様にご覧になっていただくためです。今期のテーマは、過去における東アジアの社会・文化事象や、東アジアと世界との繋がりに焦点を当てたことから、「東アジアの時空間を読む」としました。また講師陣は、中国国務院直属である中国社会科学院の研究者、本学の協定校である中国からの交換教授、学外の専門家の方々、本学の教授でした。講師の中で中国社会科学院の姚枝仲先生は、中国の経済成長率は「新常态」を背景として、当面は5%が維持されることを予測されました。また「中所得国の罠」回避の方策として、金融危機へのリスク回避、環境保護、貧困撲滅を挙げられました。加えて、今後の経済政策としては、企業の研究開発への支援による



公開講座第2回、姚枝仲氏(中国社会科学院世界経済政治研究所副所長)による講演

イノベーションや国際的技術交流の促進を強調されました。なお、昨年度からは、道民が自発的に学習し、21世紀の北海道を支える人材育成のために設立された道民カレッジの連携講座となっています。限られた回数ではありますが、本講座が知識の修得のほかに、日本を含めた東アジアにとどまらず、世界の人々の相互理解および国際交流へとつながることを期待しています。今後とも、多くの方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。(田辺)

体育祭 & 北海商科祭 — Photo Gallery

平成30年度体育祭「Fight as one!! ~一致団結して勝利を目指せ~」

本年度の北海商科大学体育祭が、11月17日に北海道青少年会館コンパス体育館で行なわれました。会場の北海道青少年会館は、1972年の札幌冬季オリンピックの際にはプレスセンターとなった潜在型複合施設で、体育祭は、長らくお世話になったNTT北海道セミナーセンター体育館から、会場を換えての初めての開催になりました。当日は1年生から4年生まで、バレーボール15チーム、玉入れ18チーム、バスケットボール17チームで熱戦を繰り広げました。バレーボールでは、豪快なジャンプサーブ、強力なアタックやそれを見事にブロックすると場内から歓声があがりました。玉入れではパーフェクトの100個投入が達成され、今年もチームワークの良さが光りました。そして圧巻だったのはバスケットボールの決勝戦。男女ともフルコートで行なわれ、学生達は、大歓声の中、冷静にフリースローを決め、息つく暇もないスピードのある走りや華麗なレイアップ、そして3ポイントシュートの美技にギャラリーも酔いしれました。ゲームの間には、既に葉を落とし静かなたたずまいを見せる丘からみる札幌市を見ながら食事をしたり談笑しながら、初冬の日を過ごしました。(加藤)



